

「ウェビング」の活用

日比生 究

「総合的な学習の時間」がいよいよ本格的に展開されることとなった。しかし、この時間が活動のみで終わってしまえば「総合的な学習の時間」の意義が失われてしまう。この時間の成否は、明確な教師側の意図と支援、そして何よりも児童生徒の問題解決に向けた主体的、創造的な取り組みの実現が握っている。ここでは、「総合的な学習の時間」における児童生徒の主体的、創造的な取り組みを可能とする「ウェビング」を活用した指導計画の立て方について述べる。

〔キーワード〕 総合的な学習の時間 指導計画 ウェビング 小学校 中学校

はじめに

「総合的な学習の時間」の取り組みは、すでに多くの学校が試行的に進めている。しかし、不安と戸惑いの中でスタートを切る学校も少なくはない。

様々な先進校の実践例は、雑誌やHP等で数多く紹介されているが、学校や地域の特色を生かした実践を積み上げていくには、児童生徒の実態をふまえた学校や地域の特色を生かすことのできる教材、今日的な課題を見極める教師のセンスと情報の収集、そして実践に対する責任ある評価が重要である。また、児童生徒が問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組むことができるような教師の的確な支援と評価、さらに、児童生徒自身の学習に対する能動的な態度を伸長することが大切である。

ここでは、当センターで実施した「総合的な学習の時間のための“環境”と“ものづくり”講座」で行った「ウェビング」の結果を紹介し、その有効性と児童生徒への適用について述べる。

1 「ウェビング」について

「ウェビング(webbing)」とは、あるテーマを設定し個々人の経験や興味・関心に基づいてそこから派生する、あるいは関連するものを蜘蛛の巣(web)状に図式化して表現する手法である。「ウェビング」は、世界中にはり巡ら

されたインターネットの世界を示す「web」と同じ語源を持つ。双方ともある一つの事柄から、それに関連する事項へと興味・関心を蜘蛛の巣のようにたどるという共通点をもつ。

従来のイメージマップと手法的にはほぼ同じであるが、世界につながっている点、一緒に学ぶ仲間ともつながっている点からこの「ウェビング」は総合的な学習の時間に最適なネーミングである。

1 指導計画を立案する際への活用

図1は、先述した講座の受講者が作成した「ウェビング」例である。

作成の流れは、

テーマをもとに個人で「ウェビング」
グループ討議(融合, 精選, 再構成)
全体交流

である。

受講者は道内各地から参加された先生方であり、地域や児童生徒の実態等が全く違うため、自分ならこう発展させたい、展開したい……というアイディアがたくさん出された。

わずか15分という短い時間の中でのグループ討議であったが、いくつかのユニットを構成した「ウェビング」(図2)も全体交流の中で紹

介された。



図1 「紙」をテーマとした「ウェビング」例



図2 「石」をテーマとし、単元を意識した「ウェビング」例

このようなことから、この手法は、教師が指導計画を立てる上で、大いに参考になる。一人よりも複数の教師がかかわることで、発想は広がりをもち共有化され、指導の道筋がはっきりとしてくる。何が発展性のある課題であるかが明確に見えてくるのである。これにより、児童生徒への的確な支援が可能となる。

3 「ウェビング」を活用した指導計画

A 教師のねらいと意図を明確にする

指導計画を立案する際には、教師側の明確なねらいと意図が必要である。「総合的な学習の時間」で何を指導したらよいか困っているという話をよく耳にするが、これは、真っ先に指導内容を組み立てようとすることから生じる戸惑いである。最初に指導内容から決めようとするので、当然、学習のねらいが後回しになる、「総合的な学習の時間」が活動のみで終始する、教師のねらいが明確ではないから評価も曖昧になる、という悪循環をもたらす要因となりかねない。

最初に指導内容について右往左往することから始めるのではなく、学習を通してどのような力を児童生徒に培うのか、という視点を教師として明確にもつことが前提となる。

では、その視点とは何か。まずは、「総合的な学習の時間」のねらい、

- (1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

小学校学習指導要領解説「総則編」より

に立ち返る必要がある。この「総合的な学習の時間」のねらいを視点の基として、児童生徒に培いたい能力の例を表1に示す。

4 課題設定場面での児童生徒への活用

児童生徒がこの「ウェビング」を作成する場合、課題を設定する場面での活用が考えられる。児童生徒が「ウェビング」を行うとき、

- ・個人の思考を整理し、課題解決に向けた見通しをもつことができる。
- ・教師が見とることでの確かな支援が可能となる。

という利点が考えられる。

また、教師が指導計画を練る際と同様に個人の「ウェビング」を基にして討議の場を設定すれば、課題の融合、精選、再構成が図られ、同時に個々の課題がweb状に結び付き、有機的なつながりをもつようになる。つまり、より発展性のある課題設定がなされ、解決に向けた具体的な見通しをもつことが可能となる。こうして展開される多方面からの追究により、児童生徒の主體的、創造的な探究活動は保証されていく。

おわりに

ここでは、教師が行う「ウェビング」を中心に述べたが、児童生徒にとっても非常に有効な手段となる。課題設定の場面だけでなく、解決の途中途中で計画の見直しと修正を加えるなど動的な「ウェビング」を心がけたい。

「総合的な学習の時間」の指導計画は、教師が作成するものであるが、あくまでもガイドラインである。この計画に縛られて児童生徒の思いや願いが無視されてしまっては本末転倒となってしまう。教師と児童生徒が試行錯誤しながら創り上げていく姿勢を大事にしたい。

参考文献

- 加藤幸次 総合学習の思想と技術 pp.22-26 明治図書 1997
 人工知能研究振興財団 情報技術を活用した教育研究会 第2章 インターネットと総合学習 (<http://www.na.rim.or.jp/~kumiko/work/report2.html>)
 児島邦宏・村川雅弘編 小学校ウェビングによる総合的学習実践ガイド pp.130-131 教育出版 2001

(ひびう きわむ 初等理科研究室長)

時 数	川		
	児 童 の 動 き	教 師 の 支 援	ねらいとの関連、評価、留意点
1	【オリエンテーション】	安全指導、教師の願い、活動時間数等の説明	安全指導と意欲の高揚
2	【野外活動】 川がきれいに曲がっているぞ 川に段差があるぞ でっかい石があるぞ ハッカのにおいがするぞ 魚がいたぞ 木にゴミがひっかかっているぞ 川の水は冷たいぞ 川の流力は強いぞ 川の水を汲んでみよう にこっているぞ 水はきれいなのかな 石に小さな虫がついてるぞ 何の虫かな 飼ってみたい 金色の石があったぞ 金かな 同じ種類の石がたくさんあるぞ この石は硬そうぞ 砂があったぞ 石で何か造ってみたい やってみよう おもしろそうだな	【児童自らが課題を発見するために】 ・堰堤や魚道、川のカーブ、植物、侵食の跡など周りの景観から気付いたことは？ ・川の水に足をを入れてみよう（水温、流れの強さの体感） ・水生昆虫を見つけよう（水質を判定する方法） ・自分のとっておきの石を見つけてみよう（上流の地質を反映していること）	【ア 課題を発見する力】 ・発見や驚きをもって対象に関わっていくこと（できたか） ・発見や驚きを問題意識へと高めていくこと（できたか） 安全への配慮の徹底 ・活動する場所の確認 ・役割分担に基づく教師の配置 指導する場面と児童の活動場面を明確にしておくこと 「何に気付かせたいのか」（教師のねらい）に基づく言葉かけを適切に行うこと
3	【課題の設定と課題の解決へ向けた見通し】 「おもしろそう」「やってみよう」と思ったものをウェビングで表現 琴似登喜川の水はきれいな？ きれいな水 とんぼ 水せいの虫 川 金色の石 その気付き、いいね！ ここに関係ありそう	【児童自らが課題解決への見通しをもつために】 ウェビング（web）についての説明 ・個人でweb → web交流 → グループでweb → web交流 グループでweb → web交流 追究テーマの決定	【イ 課題解決のための見通しをもつ力】 ・ウェビングを用いて思考を広げること（できたか） ・課題の軽重を考え、課題解決のための見通しをもつこと（できたか） ・グループのweb結果の発表を通して課題の共有化を図ること

図4 「川」を題材とした指導計画例（小学校第6学年，全16時間扱い）